

子どもと家族と家庭

子どもと家族とは

子どもは、生まれたときから二足歩行もできません。家庭を中心にしなが、両親・きょうだいの中で育てられながら、人間らしく成長していきます。

子どもが家庭で、家族の手によって育てられるためには、食べること、ねむること、身のまわりの処理のことなどの基本的な生活習慣などのしつけ、人格形成を含めた家庭教育や文化の伝承など多くの面にわたります。

そのなかで、いま問われているいくつかの問題について共に考えていきましょう。

食生活と食事の認識

食事は一日三回で一生続きますが、その食事をどんな形で、どんな雰囲気でするのか、食卓を囲みながら親は子どもに何を伝えるのかそこで積みかさねたものが子どもの食生活のあり方として培われていきます。

昔から親たちは、食事どきになると食卓をととのえ、全員そろったところで「いただきます」をしてたべます。「残さないでたべな

さい」「音をたてないでたべのよ」と親はしつけてきました。

季節ごとに変わる料理を楽しみながら、何をたべるか、どんなたべ方をするか、食事の基本的なあり方を身につけていったのです。

また、農作物や収穫の祝い膳とか季節の変化や祝い事の食事などから「我が家」の食生活が作られていきました。



食事どきに家族がそろって、楽しくゆったりたべる習慣をもって成長した子どもと、毎日ひとりぼ

ちでたべ、食事どきがこわれた家庭で育った子どもでは、食事に対する認識に大きな違いができます。最近の大学生の食生活がマス

ミにとりあげられたことがありません。その実態は、朝食なし、カロリーメイトやビタミン剤が食事のかわりであったり、カップラーメンが夕食というように、大変深刻な状況でありました。親もとからはなれて一人で生活をはじめたとき、それまでに培われてきた生活のあり方が、自分で食事をどう作りだしていくかにつながっていくのではないのでしょうか。

おもしろられるだけの子ども

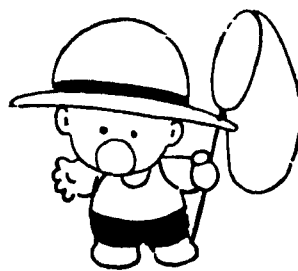
いまの子どもたちは、ひとりっ子かふたりっ子が多くなっています。両親と両方の祖父母を含めると六人の大人に囲まれて大事にされて育っています。そこでは、おもしろられることはあっても、おもしろい経験が薄くなっています。だから小学校に入っても「他人の痛みがわからない」「自分されよければいい」という子どもが多くなっていると言われています。

妹や弟の面倒をみたり、おばあさんの肩をたたいてあげたり、家庭のなかで、そういう行為をとおしておもしろい経験をすることはとても大切なことで、他人をおもしろいやる気持ちで育てることにつながるのです。

手づくりの子育てを

両親が多忙なため、子どもにかかわる時間がないとなげくお母さん方が多くなっています。でも、

子どもの姿、人間性から影響を受けて人となりをつくっていきます。親が子どもにどんな影響をあたえ、どんな子どもに育てればよいのか手づくりの子育てを考えましょう。



○第一に、家族みんなで家庭生活をつくっていく、家族全員が家庭生活の主人公で、みんなが発達に応じて家事を分担して、助け合っていく関係をつくることです。

○第二に、両親の生き方のことで、互いに自立し、人間として平等に愛し合っている家庭、子どもにとって安心できる家庭をつくることです。

○第三は、「共に生きるために」心をよせあい、助け合っていくことを実践する家庭をつくりだしていくことです。

子どもにとって家庭とは立派に成長するための基礎の、そして基本的な場なのです。

おわび

八月号の「健全育成シリーズ14」は「健全育成シリーズ編集委員会」の皆さんによるものでした。

青少年健全育成 標語の募集

十一月は、全国青少年健全育成強調月間となっております。都留市でも「青少年健全育成推進大会」が開催されます。

これを機会として、市民のみなさんから「標語」を募集します。

趣旨 青少年が社会における自らの役割と責任を自覚し、広い視野と豊かな情操を培い、非行に陥ることなく、心身ともに健やかに成長することは、市民すべての願いである。青少年の健全育成について、理解と認識を深め、日常的にこれに取り組み、参加し、行動するよう気運の高揚を図る。

方法

ハガキまたはハガキ大の用紙に作品一点を記載してください。

※十月十二日までに、市民会議事務局（中央公民館内）か教育委員会に届けてください。（小・中学生は学校）一人三点を限度とします。

表彰

成人・高校生・中学生・小学生の四部門に分け、各部門ごとに、優秀・一点、佳作・二点を十一月六日の「推進大会」で表彰します。

主催 都留市青少年総合対策本部
市教育委員会
青少年育成都留市民会議